

## 看護師・看護学生のための英語教材（1）

弓谷 行宏<sup>1)</sup>

キーワード：英語学習、専門英語、看護、医療、教材

### 要 旨

日本では看護師養成のための学科や教育機関の増加に伴って看護学生向けの英語教材も増えている。本稿では看護学生向けの最新の教科書である*Oxford English for Careers: Nursing 1 & 2*(オックスフォード大学出版局)を取り上げ、語学教師の視点から語学教師向けにその内容を紹介する。

## English-Learning Materials for Nurses and Nursing Students(1)

Yukihiro Yumitani<sup>1)</sup>

**Key words** : English learning, ESP(English for Special Purpose), nursing, medical care, learning material

### Abstract :

As the number of nurse-training university departments and academic institutions increases, English-learning textbooks for nursing students are also growing in number. This paper introduces one of the newest textbooks, *Oxford English for Careers: Nursing 1 & 2*(Oxford University Press) from a language teacher's perspective. The review is intended for fellow language teachers.

---

1) 宮城大学看護学部 (Miyagi University, School of Nursing)

## 1. はじめに

日本では看護師養成のための学科や教育機関が増える一方であるが、それに伴って看護学生向けの英語教材も増加している。現在市販されている一般的な英語を学ぶための教材の数と比べると、医療関係の英語についての教材は数こそ少ないが、それでも語学を教える者を悩ますことの一つとして教材の選定がある。

本稿では看護学生向けの教科書の一つを取り上げ、その内容について紹介する。今回この教科書（Tony Grice著、*Oxford English for Careers: Nursing 1 & 2*）を選んだ理由として、（1）最新の教科書の一つだということ（第1巻は2007年に、第2巻は2008年に出版）、（2）言語使用の4技能すべてを並行して習得できるように作られていること、（3）多くのアクティビティを通じて、学習者が英語を実際に使いながら、医療現場で使われる言葉を学ぶことができること、（4）単に専門用語の習得にとどまらず、医療、看護上の問題について広く深く英語で学べることなどがあげられる。

最初に断っておくが、本稿は語学教師の視点から、語学教師のために書いたものである。そのために、この教科書を使って看護学生に英語を教える際に、教材をどう料理するかなど、技術的なことにより詳しく触れる。しかし、後述するように、本書は、現在看護職についていて、将来イギリスなど英語圏の医療機関で研修を受けたいと思っている人たち、あるいは英語圏の教育機関で医療関係の勉強をしたいと考えている人たちにとっても有用である。教科書は授業で教師の指導のもとに学生が学べるようにできているが、出版社のウェブサイトには本書用の練習問題も豊富にあることから、やる気のある学習者なら自習用に使えなくもない。

## 2. 教科書、補助教材、及び構成

本書は第1巻と第2巻から成り、学生用の教科書Student's Bookの他に、教師用マニュアルのTeacher's Resource Book、リスニング練習用のClass CDも別売している<sup>1)</sup>。さらに、出版元であるオックスフォード大学出版局のウェブサイトにも

アクセスすれば、学習者と教師のための補助教材が利用できる。具体的には、学習者用として、文法、語彙の復習をするための練習問題と、リスニング練習用の追加教材があり、教師用としては教科書巻末の語彙表のファイルを含め、教師が練習問題を作るのに役立つファイルを公開している<sup>2)</sup>。教科書内の練習問題の答えはすべてTeacher's Resource Bookに載っている。

第1巻、第2巻とも全部で15課（各6ページ）から成っていて、両巻とも第8課の後にリーディング練習用教材15編（各1ページ）を含むReading bank（第2巻ではAdmin bank）が載っている。表1の目次を見てわかるように、本書の内容は看護、医療の諸分野を網羅している。

各課には以下のセクションと、いくつかのミニコラムが含まれる。まず、全部の課、またはほぼ全部の課に含まれているセクションとして、*Scrub up*、*Listening*、*Speaking*、*Writing*、*Reading*、*Vocabulary*、*Language Spot*、*Checklist*、*Key words*がある。*Scrub up*は各課のテーマを導入するのが目的のセクションで、主にペアワークにより学生にアクティビティをさせる。*Listening*、*Speaking*、*Writing*、*Reading*は、それぞれのスキルを向上させるための種々の練習アクティビティを含む。*Language Spot*では外国人が間違いやすい文法項目の練習をし、*Checklist*では各課で学んだことが身についたかをチェックする。*Key words*は各課のテーマと最も密接な関係にある専門用語と関連表現のリストである。

これら以外に、一部の課には、*Body bits*、*Signs and symptoms*、*It's my job*、*Patient care*、*Pronunciation*、*Project*、*Tests*が含まれている。*Body bits*では写真や絵を通して身体の部分やその他の医療に関する言葉を、*Signs and symptoms*では疾病の兆候や症状について学ぶ。*It's my job*では医療関係の仕事に従事している人が自分の仕事について紹介している。*Patient care*では患者に接する際に有用な語彙・表現を、*Tests*では検査や実験に関係のある言葉を学ぶ。（*Patient care*は第2巻にだけ収録されている。）*Project*は、インターネットでの検索やその他の方法で、看護、医療などに関係のある事柄について調べさせる課

表1 教科書の目次

第1巻 Nursing 1	
Unit 1	The hospital team
2	In and around the hospital
3	Hospital admissions
4	Accidents and emergencies
5	Pain
6	Symptoms
7	Caring for the elderly
8	Nutrition and obesity
(Reading bank)	
9	Blood
10	Death and dying
11	Hygiene
12	Mental health nursing
13	Monitoring the patient
14	Medication
15	Alternative treatments
第2巻 Nursing 2	
Unit 1	Admission by A&E
2	Admission by referral
3	Obstetrics
4	Pharmacy
5	Ophthalmology
6	Dermatology
7	Oncology
8	Gastroenterology
(Admin bank)	
9	Neurology
10	Coronary
11	Surgery
12	Infectious diseases
13	Renal
14	Psychiatry
15	Outpatients

題を含む。

巻末には、*Grammar reference*、*Listening scripts*、*Glossary*がある。*Grammar reference*は文法項目のまとめで、*Listening scripts*はリスニング練習問題の会話テキストと*Pronunciation*に出てくる単語を含む。*Glossary*は各課の*Key words*をまとめたもので、見出し語の発音表記と定義が含まれる。さらに第1巻の巻末にはスピーキング練習のアクティビティで用いる*Speaking activities*、第2巻の巻末には医療関係の頭字語の

リストである*Abbreviations*も載っている。

### 3. 教科書の特徴

本書はすべて英語で書かれていて、そこで使われているのはアメリカ英語ではなく、イギリス英語である。目標は主として学習者がイギリスの一般病院において看護師として英語を使って職務をこなせるようになることに設定されている。

医療現場に必要な4技能をまんべんなく習得できるように作られているが、中でもリスニングにかなりの比重が置かれている。リスニング練習用の問題はすべて会話文であるが、第1巻の最初の2課こそ会話全体は短いものの、3課からは長い会話になる。使われている文の長さはどうかと言うと、2課でさえ次のような比較的長い文が現れている。

(例) Can you go across the hospital to the stores and collect a box of disposable syringes and take them to the Path lab? (第1巻、2課リスニング問題)

さらに第2巻になると、会話が複雑になると同時に、文自体もずっと長くなる。

(例) The third choice is ECT-electro-convulsive therapy. Many people are against it, but it can be highly effective and some patients, who have tried everything else, say it is the only thing to shine a light in their darkness. (第2巻、2課リスニング問題)

この点、日本人の看護学生向けに日本で出版されている英語教科書では、ごく一部の書籍を除き会話全体が短いし、文もそうである。本書では会話が長いだけでなく、会話に現れる英語もごく自然な本物の英語である。それから、日本で出ている英語教科書では会話の相手はいつも看護師と患者だが、本書では看護師と患者だけでなく、看護師と医師、病院の他のスタッフ、患者の家族、医師と患者、看護師以外のスタッフ同士、というように非常に多彩である。本書のリスニング練習問題を時間を十分にかけて勉強すれば、かなりのリスニング力がつくだろう。

次に発音についてであるが、英語発音の練習というと、日本ではとかく母音と子音の練習が強調されすぎるきらいがあるが、英語の母語話者を初め外国人を相手に理解してもらうためには、むしろストレスやイントネーションの方が大切である。この点、本書では両巻合わせて計12課にPronunciationに関するセクションが現れるが、そのうち5つはストレスの練習であり、著者がいかにストレスの発音を重視しているかがわかる。

本書は積極的に英語が使えるようにするため、SpeakingとWritingのセクションだけでなく、その他のセクションでも学習者に多くのアクティビティ（特にクラスメートとペアでの作業）をさせ、少しでも多く英語を使わせるよう工夫されている。この点、日本で出版されている看護学生向けの英語教科書では、医療現場で用いられる医療用語や会話用の決まり文句をそのまま覚えさせる程度に終わっているものが少なくない。本教科書のアクティビティを教室でさせ、さらに学生が復習にも十分に時間をかけた場合、英語の運用能力は大きく向上するだろう。

本書のもう一つの重要な特徴は、医療に関係のある読み物やミニコラムが多く含まれているので、学習者は医療、看護に関する問題について広く深く英語で学べるようにもなっていることである。

最後になったが、本書には多数のカラー写真や絵が載っており、臓器の機能の解説などは、学習者にとっては白黒のものよりも理解しやすいかもしれない。

#### 4. 使用するにあたっての課題

前節では主に本書の長所について書いたが、ここでは問題点に触れたい。一言で言うと、本書は中身が濃い反面、すべての事柄を学習し習得するためには相当の時間がかかるということである。

『オックスフォード大学出版局英語教育教材カタログ』（2009年度版）によると、本書は「準中級から準上級」までの学習者、具体的にはTOEICで380～800点、英検では準2級から1級までの学習者を対象としているという（76ページ参照）。確かに第2巻と比べると、第1巻に出てくるアクティ

ビティやリスニング用教材はより平易である。しかし、TOEIC380点、英検準2級程度の英語学習者には少し難しすぎるかもしれない。特に日本のごく普通の中学と高校で英語を学んだ平均的な英語学習者の場合、簡単なこともなかなか英語で話せない者が圧倒的に多い。このような人たちが本書を使う場合は、教師、学生ともかなりの時間を費やす必要があるだろう。

また、本書、特に第2巻に出てくる事柄のなかには、既に専門的な知識を身につけていることを前提に書かれているものがあるので、学習効果を高めるためには、専門的なことをまず日本語で学習し終わってから本書を使う方がよいだろう<sup>3)</sup>。そうすると、4年制大学で看護を学んでいる人たちの場合、早くて3年次、なるべくなら4年次に本書を使うのが妥当ではないかと思える。

それから、専門用語を日英語対照で紹介している日本の看護学生向け教科書とちがひ、本書では巻末のGlossaryと、各課のごく一部に英語による用語の説明が載っているだけなので、平均的な日本人学生を相手に本書を使用する場合、もし予習として学生にすべての英語の意味を調べさせようとすると、それだけで膨大な時間を要し、復習の時間がなくなるおそれがある。それよりは、少なくとも専門用語については、教師が日英対照の用語リストを作成し、それをあらかじめ学生に配った方が、はるかに効率的だろう。

本書の最も重要な特徴の一つはリスニング練習用の問題が充実していることだと先に書いたが、学生用の教科書にはCDは付属しておらず、もし学生全員に教科書とCDを購入させると、5000円以上かかる。図書館などでCDを学生に貸し出し、予習させるということも考えられるが、学生数が数人以上の場合は貸し出しには無理があるので、やはりすべての学生にCDを持たせた方がよいはずだ。とにかく、どの練習問題も教室でいきなり1～2回学生に聞かせただけでは大して内容が理解できないだろうから、宿題として各学生にCDに収録された会話を聞く予習を課すことが必要である。そこで出版社への要望であるが、カラー写真やカラー図絵を必要最小限にし、代わりに白黒のものを使用するなどして教科書出版の経費を削減し、

その代わりたとえ数百円価格を上げてでもCDを教科書に付属させることはできないだろう。

また、教科書とは別売りのClass CDには会話はすべて含まれるが、専門用語の発音はごく一部に限られている。仮に教師が英語母語話者の場合でも、専門用語となると発音を知らないケースもあるので、CDには医療専門家による専門用語の発音も含まれた方がありがたい。しかし、それが不可能な場合には、専門家の協力を得て、教師がCDを制作し、学生に配布した方がよい。

本書では発音の練習問題の一部に、音声記号で書かれた単語を読ませるものがある。その意図はおそらく巻末のGlossaryに収録されている単語が自分で読め、さらに外国人英語学習者用の辞書などで国際音声字母で表記された単語も発音できるようにすることだと思われる。確かに見知らぬ単語の発音を辞書を用いて知ることは大切であるが、本書のようなESP(English for Special Purpose)を学ばせるための教科書では、むしろ正確な発音を聞かせ、覚えさせることの方が重要だろう。

本書のもう一つの特徴であるアクティビティは、確かに学生の学習意欲を高める効果はあるかもしれないが、学生に復習に時間をかけさせ、教師も定期的に(少なくとも1課を終えるたびに)学習項目の習得をチェックするための確認テストをやる必要があるだろう。

そうなると、テストの時間を含め、本書の各課を終えるのに90分授業で3コマぐらいを要するのではないと思われる。各巻とも計15課あるが、週に1コマの授業では1学期にせいぜい5課ぐらいしか進まない。つまり1年かけても1巻が終わらないことになる。この点は、広く学ばせるのを優先するか、少数の事柄を深く学ばせるのを重視するか、難しい問題である。

## 5. おわりに

本書はリスニング練習用問題、アクティビティ、そして医療関係の読み物の豊富さに加え、自然な英語が用いられており、教師、学生ともに時間をかければ、学生はかなりの効果を上げることができよう。看護4年課程の4年生を対象に丸1年かけて使うのもいいのではないと思われる。

今回は看護学生向けの教科書を紹介したが、他にも良書はあり、またいつか紹介したい。さらには今後は書籍だけでなく、マルチメディア教材やソフトウェアなども取り上げたい。

## 注

- 1) 出版社はオックスフォード大学出版局(Oxford University Press)で、教科書、及び補助教材のISBN、価格(2008年9月時点、税込み)は次の通りである。  
Nursing 1: Student's Book (978 019 456977 4、2500円)、Teacher's Resource Book (978 019 456978 1、2670円)、Class CD (978 019 456981 1、2670円)。  
Nursing 2: Student's Book (978 019 456988 0、2500円)、Teacher's Resource Book (978 019 4569903、2670円)、Class CD (978 019 4569910、2670円)。
- 2) 学習者用のウェブページのURLは [www.oup.com/elt/oefc](http://www.oup.com/elt/oefc)、教師用のページは [www.oup.com/elt/teacher/oefc](http://www.oup.com/elt/teacher/oefc) である。
- 3) 例えば、第2巻、3課(Obstetrics)のScrub upには妊娠期間の諸段階についてクラスメートとペアで話し合う練習が含まれる。部分的に授業でcontent-based approachを取るにしても、この例以上に専門的な内容の事柄がある。

## 参考文献

- 1) 井上真紀, 佐藤利哉: Life Saver - Basic English in Medical Situations (話せる! 役立つ! 看護英語), マクミラン・ランゲージハウス, 2005
- 2) 仁木久恵, 助川尚子, ナンシー・シャーツ-ホブコ: Let's Listen, Speak and Learn 臨床看護英語(第4版), 医学書院, 2001
- 3) 野口ジュディー, 川越栄子, 仁平雅子(中西睦子監修): 耳から学ぶ楽しいナース英語, 講談社, 2002
- 4) 渡邊容子, Pamela Uchida, 山本淳子(佐々木かほる, 他監修): Health Talk - English for Hands-on Nursing (実践的看護英語の基礎), ピアソン・エデュケーション, 2004